

2027年3月期

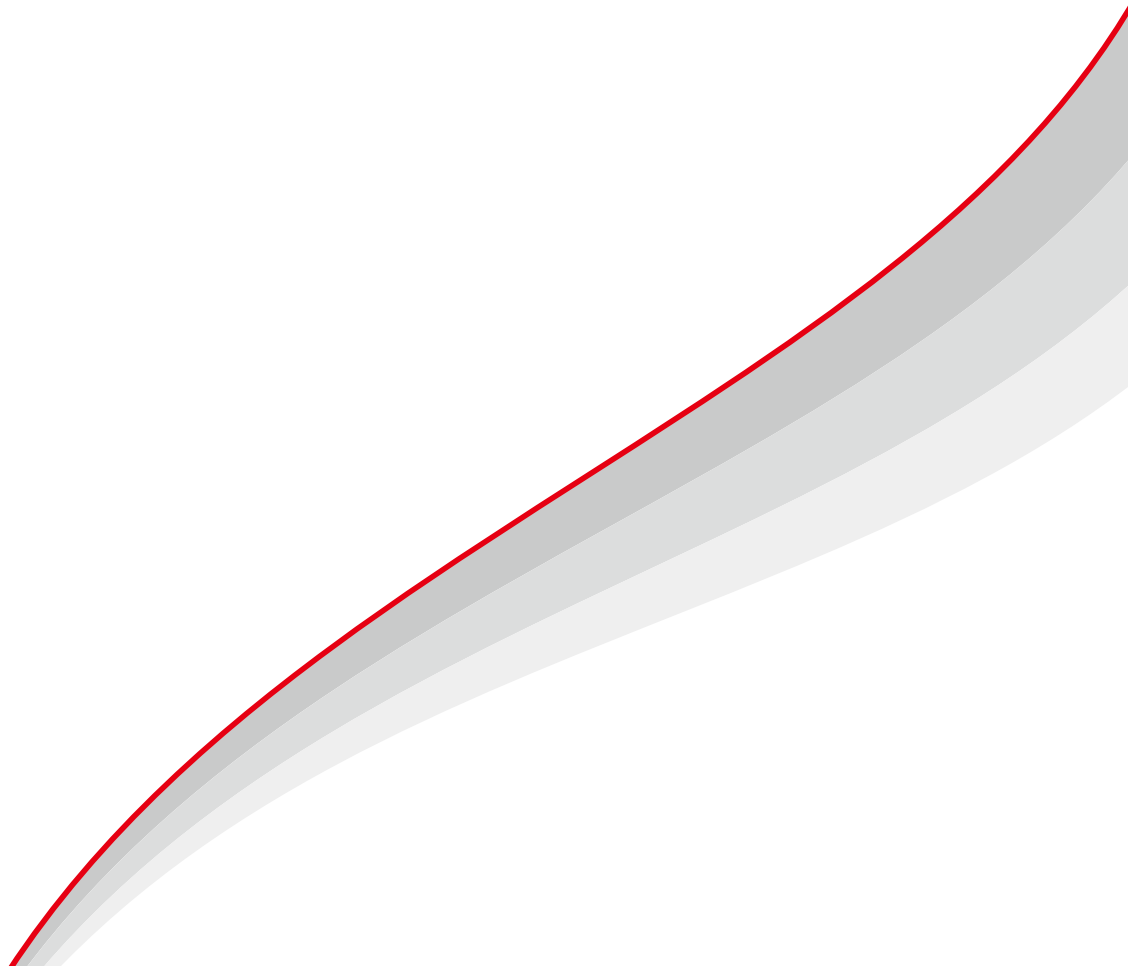
第1四半期決算説明会

株式会社島津製作所

東証プライム市場:証券コード7701

常務執行役員 前田愛明

2026年8月6日



ハイライト

第1四半期 増収増益

売上高・営業利益とも前年および当社想定を上回って増加

- ・【売上高】 1,306億円（前年同期比+10%）：6期連続で1Q過去最高を更新
- ・【営業利益】 143億円（前年同期比+17%）：3期ぶりに1Q過去最高を更新

セグメント別

セグメント別利益の開示方法を「のれん等償却前営業利益」に変更

- ・計測：増収減益 / 付加価値訴求で増収も、中東情勢の影響で減益
- ・医用：増収増益 / X線機種好調
- ・産業：増収増益 / ターボ分子ポンプ(TMP)好調で大幅増
- ・航空：増収増益 / 防衛・民間ともに増加

通期目標

通期目標を売上高、すべての利益項目において上方修正

- ・半導体市況が好調でTMPの需要上振れ
- ・中東情勢による業績影響は、期初想定より緩和見込み
- ・Tescan社業績を2026年度第3四半期から連結予定(連結対象期間6か月)
- ・想定為替レートを期初より円安方向に見直す

決算概要

- 連結
- セグメント別

連結 / 業績

	単位:億円	第1四半期(4月-6月)		前年同期比	
		FY2025	FY2026	増減額	増減率
業績	売上高	1,184	1,306	+122	+10%
	営業利益	122	143	+21	+17%
	営業利益率	10.3%	10.9%	+0.6pt	
	経常利益	113	185	+72	+63%
	親会社株主に帰属する当期純利益	79	133	+54	+68%
<参考>	のれん等償却前営業利益	125	146	+21	+17%
為替	平均為替レート:米ドル(円)	144.63	159.50	+14.87	+10%
	ユーロ(円)	163.83	185.43	+21.60	+13%
	研究開発費	73	70	▲3	
	設備投資額	54	78	+25	
	減価償却費	50	52	+2	

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費4億円の組み換えを行った。

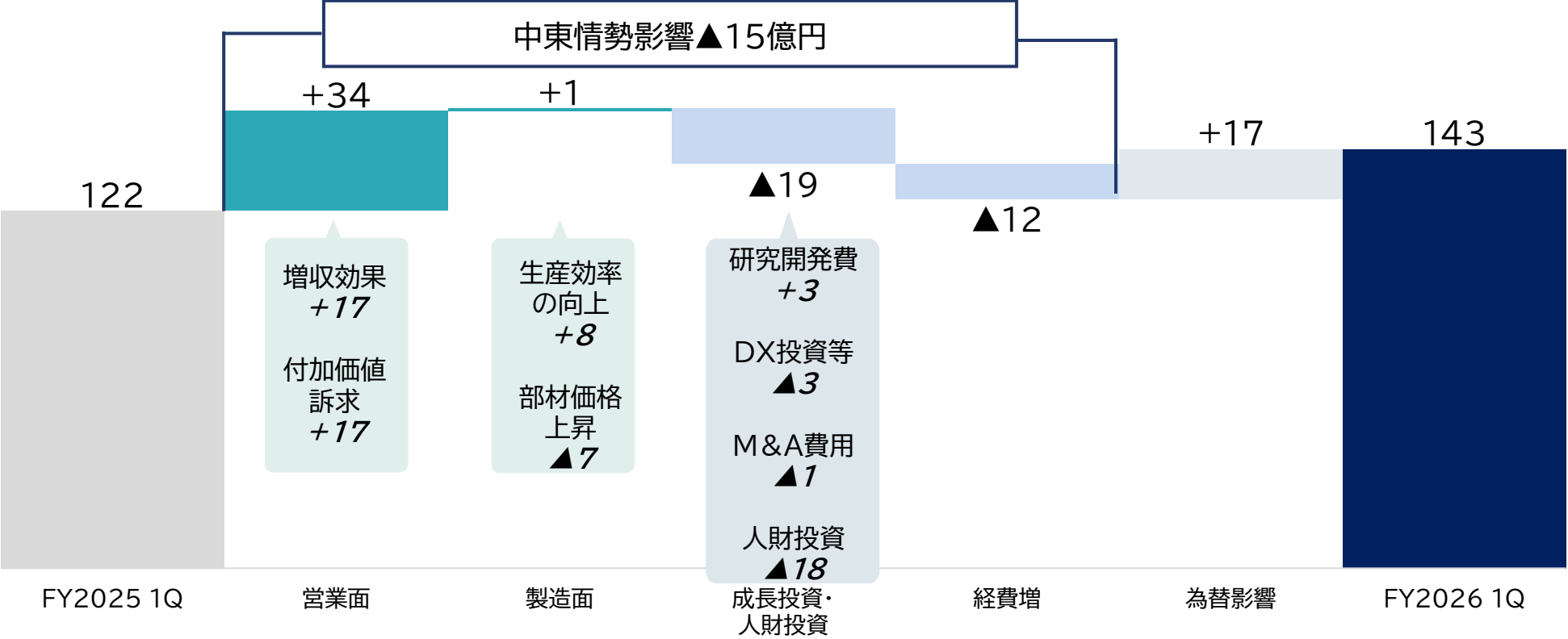
為替影響額	
売上高	+78億円
営業利益	+17億円
為替差損益	+46億円
(売上高、営業利益は平均為替レートで、為替差損益は期末レートで計上)	
FY2025 1Q	為替差損▲13億円 期末レート 3月末 1ドル150円 → 6月末145円
FY2026 1Q	為替差益+34億円 期末レート 3月末 1ドル160円 → 6月末162円

※記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

連結 / 営業利益増減要因

■ 営業面	: 中東影響を受けたものの増収による効果と付加価値訴求で増加	+34億円
■ 製造面	: 部材価格上昇も、生産効率の向上により増加	+1億円
■ 成長投資	: DX投資やM&A費用が増加	▲1億円
■ 経費増	: 業務委託料、旅費交通費などの増加	▲12億円

(億円)



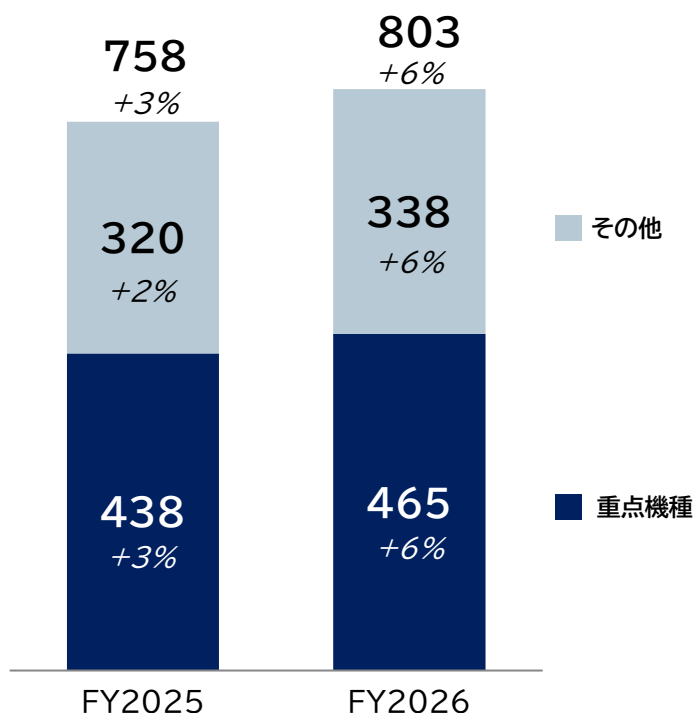
※記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

計測機器 / 売上高・営業利益

- 売上高 : 中東情勢による売上遅延も発生するなか、重点機種、その他機種ともに過去最高を更新。ただし為替影響を除くと減収
- 営業利益 : 中東情勢影響による部材高騰と売上遅延で減益
- 中東情勢 : 売上高約20億円、営業利益約15億円のマイナス

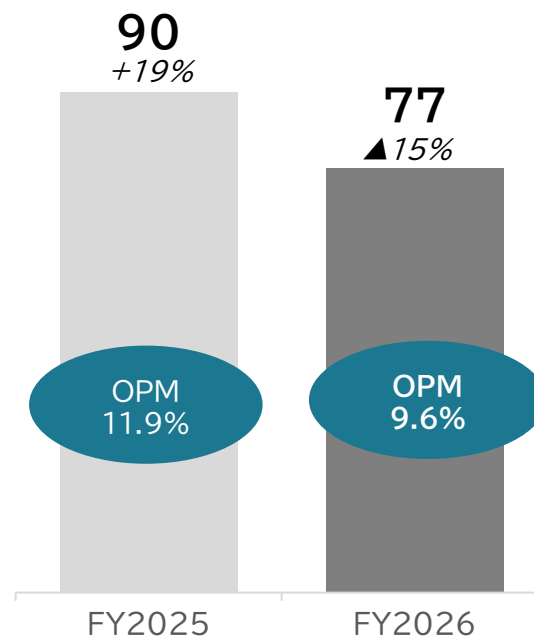
売上高

(億円) %:前年同期比



のれん等償却前営業利益

%:前年同期比



重点機種

売上高 **465** 億円 (前年同期比+6%)

※重点機種:液体クロマトグラフ(LC)、質量分析システム(MS)、ガスクロマトグラフ(GC)

- ・ LCは日本で医薬、北米で官庁・大学向けが回復
- ・ MSは欧州で大きく増加も、インドで中東情勢から減少

その他

売上高 **338** 億円 (前年同期比+6%)

- ・ 中国、東南アジアでは前年大口案件の反動で減少

リカーリング

売上高 **362** 億円 (前年同期比+14%)

- ・ リカーリング売上高比率 45% (対前年同期+3pt)
- ・ 欧州で臨床市場向けに消耗品が増加

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標を営業利益から「のれん等償却前営業利益」に変更したことに伴い、セグメント利益も「のれん等償却前営業利益」に変更。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費3億円の組み換えを行った。

計測機器 / 地域別売上高

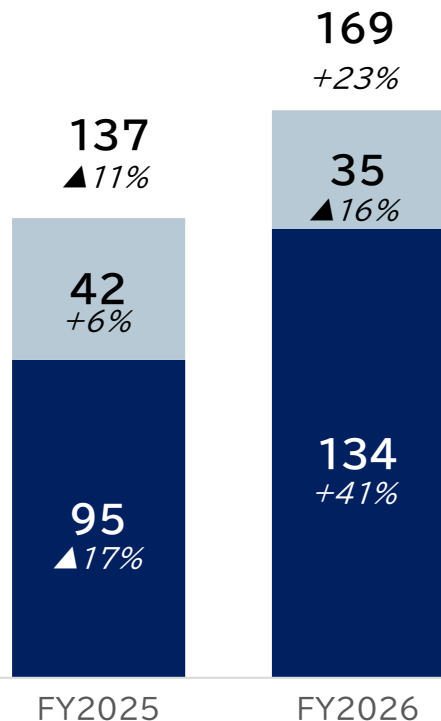
単位 億円	FY2025	FY2026	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	241	251	+10	+4%	・ 医薬向けに液体クロマトグラフが増加 ・ 電機、機械向けに試験機が増加
海外	517	552	+35	+7%	・ 海外売上高比率は68.2%から68.8%へ増加
北米	92	103	+10	+11%	・ 官庁・大学向けに液体クロマトグラフが増加
欧州	93	114	+21	+23%	・ 臨床検査向けや食品、官庁・大学向けに質量分析システムが増加
中国	167	170	+3	+2%	・ バイオ医薬向けに液体クロマトグラフが増加 ・ 一方、大規模設備投資支援策などの官需は動きが鈍く減少
その他の アジア (インド除く)	74	69	▲5	▲6%	・ 東南アジアで医薬や官庁・大学向けに液体クロマトグラフが増加したものの、 前年同期の官公庁向け大口案件の反動減を補えず減少
インド	47	44	▲3	▲6%	・ 中東情勢による案件遅延で、液体クロマトグラフや質量分析システムが減少

医用機器 / 売上高・営業利益

- 売上高 : グローバルでX線機種が好調、その他機種は低収益製品の取り扱い縮小で減少
- 営業利益 : 増収や新製品効果などにより利益率は大きく回復。引き続き収益改善に注力

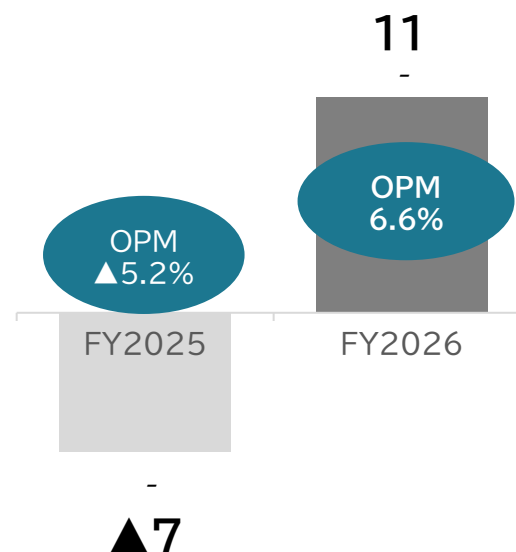
売上高

(億円) %:前年同期比



のれん等償却前営業利益

%:前年同期比



X線機種

売上高 **134** 億円 (前年同期比+41%)

- ・ X線テレビシステムや回診用X線撮影システムの新製品効果で好調に推移

その他

売上高 **35** 億円 (前年同期比▲16%)

- ・ 収益性の低い製品の取り扱いを縮小したことで減少

リカーリング

売上高 **67** 億円 (前年同期比+3%)

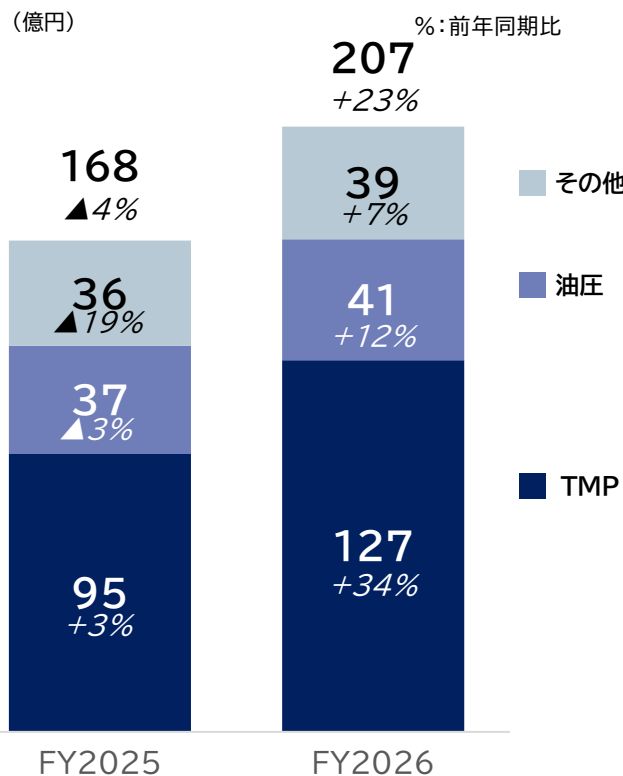
- ・ リカーリング売上高比率 39% (対前期▲8pt)
- ・ 海外を中心に増加も、製品の伸び率が大きく比率は低下

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標を営業利益から「のれん等償却前営業利益」に変更したことに伴い、セグメント利益も「のれん等償却前営業利益」に変更。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費0億円の組み換えを行った。

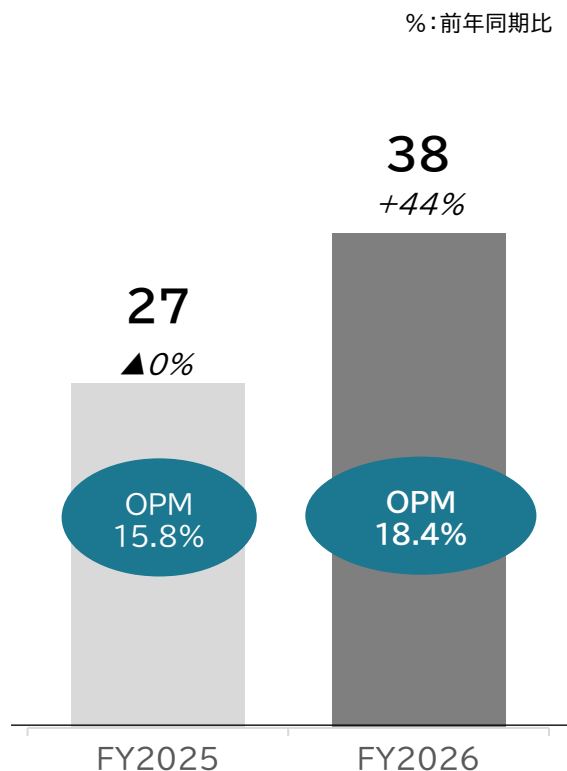
産業機器 / 売上高・営業利益

- 売上高：半導体製造装置(以下SPE)向けTMPが大きく増加
- 営業利益：TMPがけん引した増収効果により大幅増益
- 中東情勢：当初見込んでいたマイナス影響は発現せず

売上高



のれん等償却前営業利益



TMP

売上高 **127** 億円 (前年同期比+34%)

- SPE向けが日本、欧州、台湾、韓国で大きく増加
- コーティング向けが中国で減少
- SPE向けサービスが増加

TMPリカーリング

売上高 **27** 億円 (前年同期比+35%)

- TMPリカーリング売上高比率 21%(対前期+0pt)

油圧

売上高 **41** 億円 (前年同期比+12%)

- 産業車両向け、建設機械向けを中心に増加

その他

売上高 **39** 億円 (前年同期比+7%)

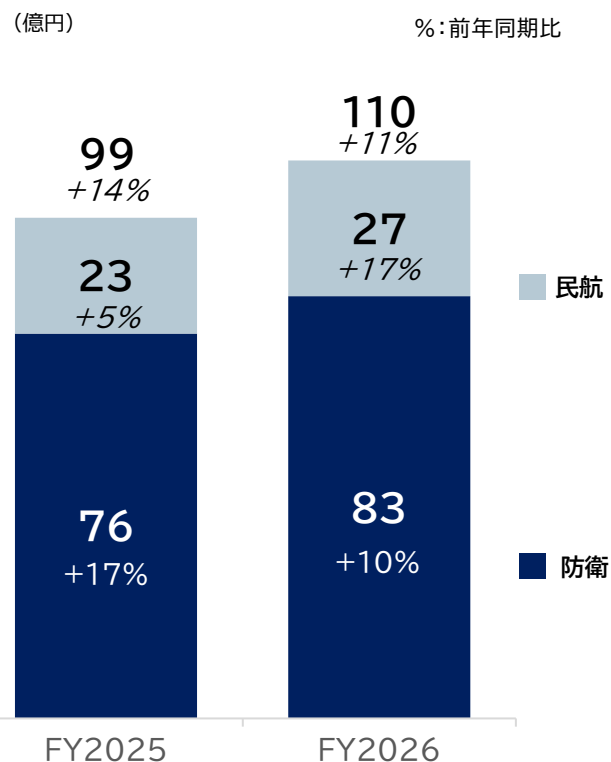
- 工業炉が減少

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標を営業利益から「のれん等償却前営業利益」に変更したことに伴い、セグメント利益も「のれん等償却前営業利益」に変更。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費0億円の組み換えを行った。

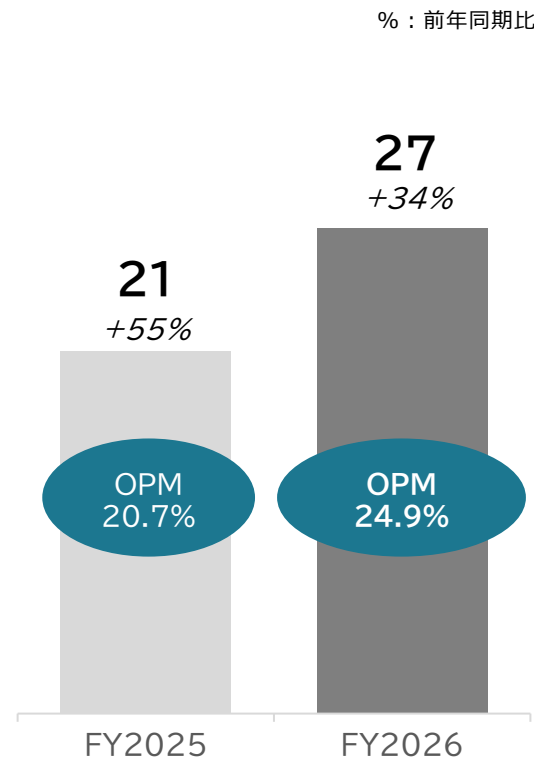
航空機器 / 売上高・営業利益

- 売上高 : 防衛向け、民間航空向けとも増加
- 営業利益 : 増収効果により大幅増益

売上高



のれん等償却前営業利益



防衛

売上高 **83**億円 (前年同期比+10%)

- ・ 政府の防衛力強化方針により需要が拡大

民航

売上高 **27**億円 (前年同期比+17%)

- ・ 民間航空機向け搭載品や航空会社向け補用部品が増加
- ・ サプライチェーンの混乱から回復基調

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標を営業利益から「のれん等償却前営業利益」に変更したことに伴い、セグメント利益も「のれん等償却前営業利益」に変更。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費0億円の組み換えを行った。

ガイダンス

- 2026年度通期業績予想
- 2026年度通期セグメント別
業績予想

2026年度通期業績予想

- 中東情勢影響を、増収・価値訴求で跳ね返して前期比増収増益を見込む
- 産業(TMP)の需要上振れ、中東情勢影響の緩和、Tescan社連結、円安基調により期初公表比でも増収増益
- Tescan社業績の連結対象期間は6カ月間

単位:億円		FY2026 新予想	前期比		期初公表比	
			増減額	増減率	増減額	増減率
業績	売上高	6,200	+593	+11%	+450	+8%
	営業利益	800	+63	+9%	+40	+5%
	営業利益率	12.9%	▲0.2pt		▲0.3pt	
	経常利益	810	▲18	▲2%	+60	+8%
	親会社株主に帰属する当期純利益	590	▲15	▲2%	+40	+7%
<参考>	のれん等償却前営業利益	850	+99	+13%	+78	+10%

通期為替レート
 米ドル:157.5円(下期155円)
 ユーロ:182.5円(下期180円)

研究開発費			設備投資			減価償却		
	対前期	対期初公表		対前期	対期初公表		対前期	対期初公表
320	+29	+15	300	+79	+50	200	▲4	—

中東影響

売上高 ▲30億円

営業利益 ▲25億円

Tescan社
(半年分; 暫定値)

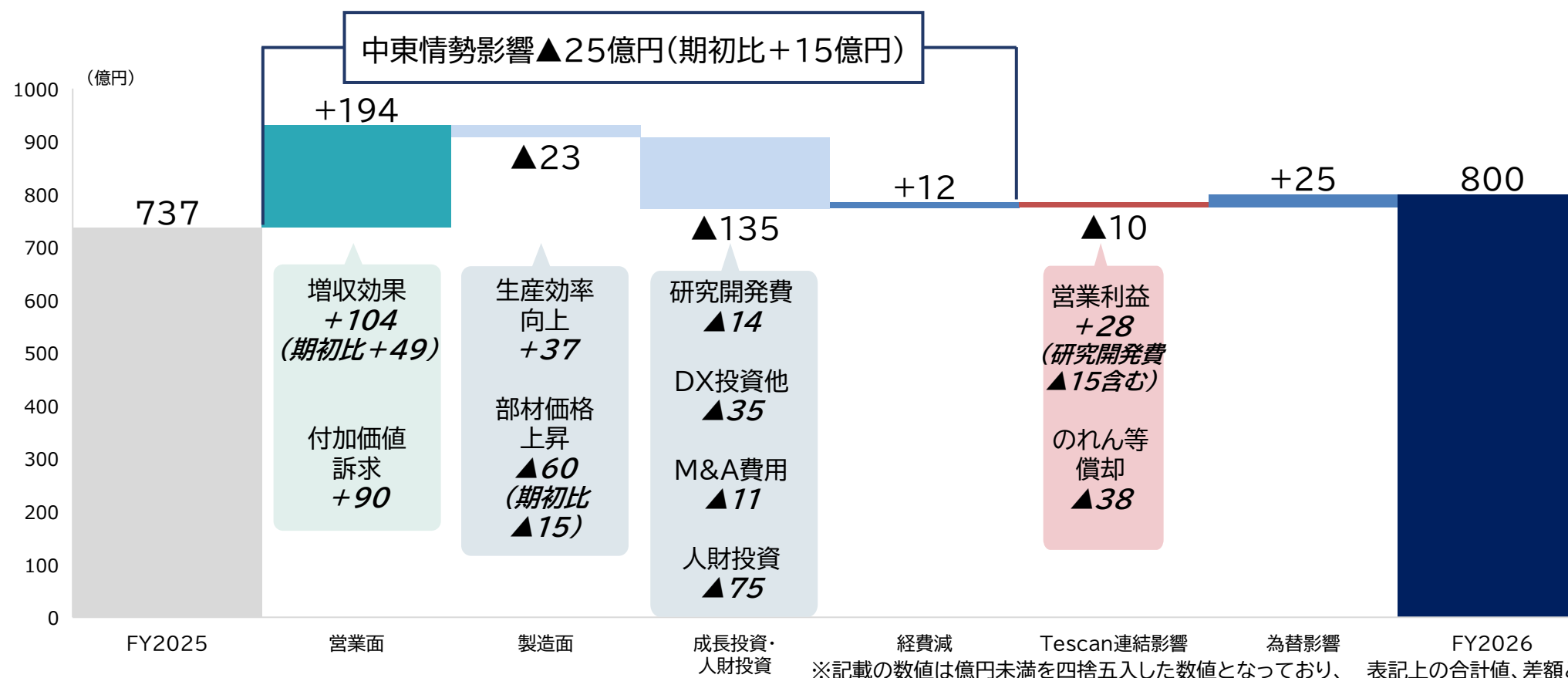
売上高 +165億円

のれん等償却前
営業利益 +28億円

のれん等 ▲38億円

連結 / 2026年度通期営業利益予想(新予想)

- 営業面では、増収による効果と、付加価値訴求で利益増の見込み
- 製造面では、中東情勢による部材価格高騰が継続し、生産効率向上を上回り、利益減の見込み
- 研究開発費、DX投資などの成長投資と人財投資が増加。加えてM&A費用11億円を織り込む
- Tescan社業績とのれん等償却費を織り込むものの為替影響がプラスに寄与



2026年度通期セグメント別業績予想

- 新製品の積極的な拡販およびプライシング適正化をすすめて目標超過を目指す
- 計測：中東情勢影響はあるものの新製品拡販と好調市場深耕、リカーリング拡大で増収増益
 - 医用：特長ある製品の拡販、不採算製品の整理、リカーリング事業の強化・拡大で収益性向上を目指す
 - 産業：好調な半導体向けTMP市況をとらえ、販売増とリカーリング強化で増収増益
 - 航空：円安影響に加え好調な需要を背景に、業績拡大を目指す

単位: 億円	売上高				のれん等償却前営業利益				営業利益率		
	FY2025	FY2026 新予想	前期比		FY2025	FY2026 新予想	前期比		FY2025	FY2026 新予想	前期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	3,649	4,100	+451	+12%	538	630	+92	+17%	14.7%	15.4%	+0.6pt
医用機器	738	715	▲23	▲3%	50	60	+10	+19%	6.8%	8.4%	+1.6pt
産業機器	715	860	+145	+20%	107	160	+53	+50%	14.9%	18.6%	+3.7pt
航空機器	434	470	+36	+8%	82	60	▲22	▲27%	19.0%	12.8%	▲6.2pt
その他	71	55	▲16	▲23%	12	15	+3	+27%	12.4%	20.5%	+8.1pt
調整額	-	-	-	-	▲37	▲75	▲38	-	-	-	-
合計	5,607	6,200	+593	+11%	751	850	+99	+13%	13.4%	13.7%	+0.3pt

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025はのれん等償却費計14億円の組み換えを行った。

トピックス 通期公表修正について

- Tescan社の連結影響
- 中東情勢影響の見通し
- 計測/地域別売上高見込み
- 計測/付加価値訴求の進捗

2026年度通期セグメント別業績予想

- 全セグメントで売上高・営業利益を期初公表から上方修正。のれん等償却費は事業部損益から除外
- 計測：中東情勢影響を受けるものの、為替影響、Tescan社連結により売上高、営業利益とも上方修正
 - 医用：為替影響により売上高・営業利益とも上方修正
 - 産業：TMP市況好調、中東情勢影響の緩和、為替影響で売上高・営業利益とも上方修正
 - 航空：為替影響の反映と好調な需要を背景に売上高・営業利益とも上方修正

単位: 億円	売上高						のれん等償却前営業利益						営業利益率			
	FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 新予想	期初公表比			FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 新予想	期初公表比			FY2025	FY2026 期初予想	FY2026 新予想	期初公表比 増減
				増減額	増減率					増減額	増減率					
計測機器	3,649	3,850	4,100	+250	+6%		538	626	630	+4	+1%		14.7%	16.3%	15.4%	▲0.9pt
医用機器	738	700	715	+15	+2%		50	56	60	+4	+7%		6.8%	8.0%	8.4%	+0.4pt
産業機器	715	705	860	+155	+22%		107	100	160	+60	+60%		14.9%	14.2%	18.6%	+4.4pt
航空機器	434	440	470	+30	+7%		82	50	60	+10	+20%		19.0%	11.4%	12.8%	+1.4pt
その他	71	55	55	+0	+0%		12	15	15	+0	+0%		12.4%	20.5%	20.5%	+0.0pt
調整額	-	-	-	-	-		▲37	▲75	▲75	+0	-		-	-	-	-
合計	5,607	5,750	6,200	+450	+8%		751	772	850	+78	+10%		13.4%	13.4%	13.7%	+0.3pt

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025はのれん等償却費計14億円の組み換えを行った。

Tescan社の連結影響

- Tescan社を下期から計測セグメントに連結予定
売上高165億円、のれん等償却前営業利益28億円、M&A関連費用▲11億円を織り込む。
連結に伴うのれん等償却費(暫定値)は38億円
- 市場環境
 - ・半導体関連市場は活況。微細化・積層化の進展により、レーザー加工、電子顕微鏡の市場は拡大見込み。
 - ・ライフサイエンス市場でもSEMの活用が拡大
- 直近の受注状況
 - ・半導体メーカー向けに、研究開発用途で複数台を受注
 - ・クロスセルも主にアジア地域から開始
- 今期(2026年12月期)の単体業績見通し
 - ・受注、売上ともFY2025実績(受注208MUSD、売上193MUSD)に対して2桁%の伸びを予定
 - ・EBITDAは、FY2025実績40MUSDに対して2桁%の伸びを見込む

中東情勢影響の見通し

- 中東情勢は期初想定(3か月間で紛争が収束)よりも長引いているものの、影響額は通期で売上高70億円、営業利益15億円改善の見込み
- 通期想定影響額 ①市況悪化による影響（間接的影響） 売上高▲30億円 営業利益▲20億円
②原油価格・物流費等のコスト増（直接的影響） 営業利益▲30億円
- コスト増分を経費削減、価格転嫁で補う計画

主な影響	期初想定影響額（前期比）	修正想定影響額（前期比）	期初からの改善額
① 市況悪化に伴う売上減（間接的影響）	売上高 ▲100億円 営業利益▲55億円	売上高 ▲30億円 営業利益 ▲20億円 計測の日本・東南アジア・インドで影響が残る	売上高 +70億円 営業利益+35億円 グローバルに市況悪化懸念が緩和
② コスト増（直接的影響）	営業利益 ▲15億円	営業利益 ▲30億円	営業利益 ▲15億円 部材・輸送費が高騰見込み
③ その他	営業利益 +30億円 経費抑制、価格転嫁	営業利益 +25億円	営業利益 ▲5億円
合計	売上高 ▲100億円 営業利益 ▲40億円 計測(売上高▲60億円、営業利益▲25億円) 医用(売上高▲5億円、営業利益▲わずか) 産業(売上高▲35億円、営業利益▲15億円)	売上高 ▲30億円 営業利益 ▲25億円 計測(売上高▲25億円、営業利益▲25億円) 医用(売上高▲5億円、営業利益▲わずか)	売上高 +70億円 営業利益 +15億円 計測(売上高+35億円、営業利益変わらず) 産業(売上高+35億円、営業利益+15億円)

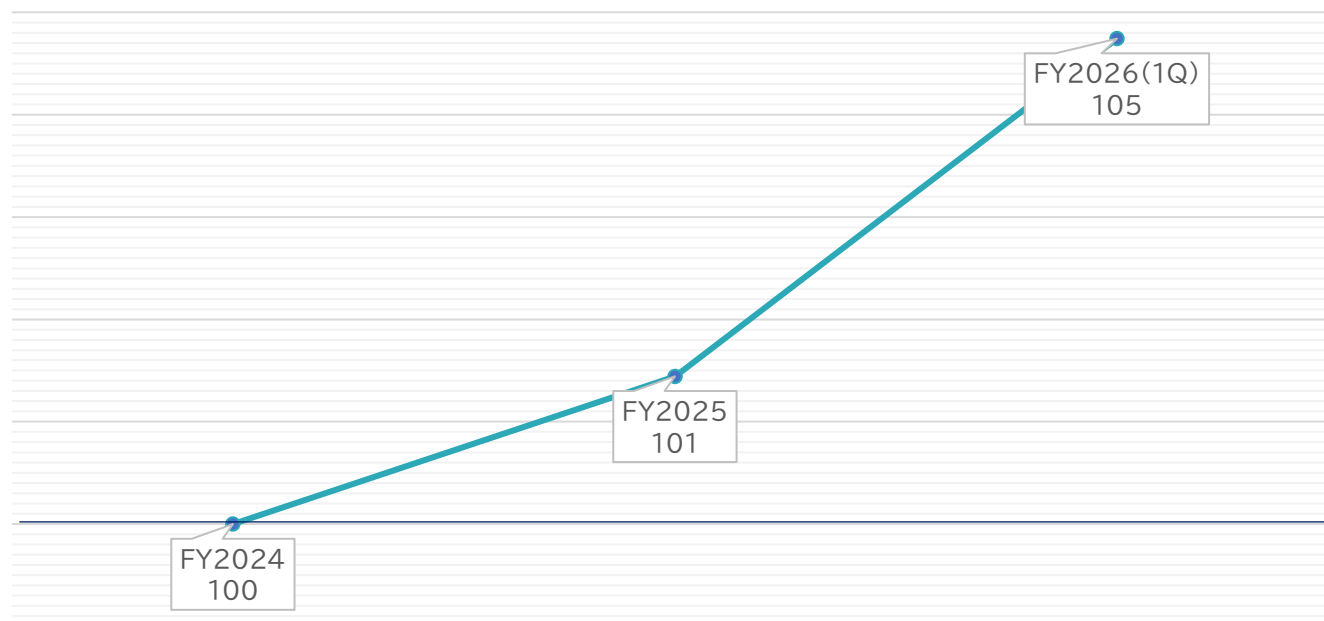
計測機器 / 地域別売上高成長率見込み

前年同期比	FY2026見込み (除為替影響)	地域	Q1	今後の見通し	
日本	10-13%	日本	中東情勢影響を受けたものの、堅調に推移	3Q以降に本格化する官庁・大学向け補正予算に期待	新製品効果に期待 Tescan社連結効果
北米	7-9%	北米	厳しく推移。昨年牽引したNexera QXに一服感	臨床検査市場向けの回復を見込む	
欧州	7-9%	欧州	臨床市場、官庁・大学市場が牽引	臨床市場、官庁・大学市場に加え、食品、医薬市場にも期待	
中国	7-9%	中国	民需の回復が遅れるなか、大規模設備更新プロジェクトの動きも鈍い	バイオ医薬向けや中国版RoHS関連市場に期待	
その他のアジア	7-9%	インド	中東情勢が想定以上に厳しく影響	現地通貨安による購買力低下懸念はあるものの、引き続き設備投資意欲は強く回復が見込まれる	
(内数)インド	7-9%				
計測全体	7-9%				

計測機器 / 付加価値訴求の進捗

- 新製品中心の付加価値訴求や生産効率の向上で粗利率は大きく改善傾向
- FY2026～の中期経営計画期間においても、既存施策の加速と新規施策により、さらなる粗利率の上昇を図る
- 「稼ぐ力」の向上に注力するとともに、費用のコントロールに努める

粗利率の推移(FY2024～)
※FY2024通期を100として指数化



既存施策

- ・ 売上ミックス改善
- ・ 生産・製造効率化

今期から取り組んでいる新規施策

- ・ 既存製品含めたプライシング適正化

(ご案内) 9/4 計測機器事業説明会 & JASIS島津ブースツアー

アジア最大級の分析・計測機器展示会「JASIS」会場にてアナリスト・機関投資家向け計測機器事業説明会を開催

開催日時 2026年9月4日(金) 13:00 - 15:45

開催場所 幕張 + オンライン配信併用

プログラム
13:00 - 13:50 : プレゼンテーション(ライフサイエンス市場・半導体市場向け取り組みのご紹介)
13:50 - 14:30 : 質疑応答
14:45 - 15:45 : JASIS島津ブースご案内

プレゼンター
常務執行役員 分析計測事業部長 富田 真巳
分析計測事業部 副事業部長 兼 ライフサイエンス事業統括部長 小倉 泰郎
分析計測事業部 副事業部長 兼 TESCO GROUP, a.s. 取締役会長 宮川 治彦





本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、
経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素に
より、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ
電話：075-823-1673
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

補足資料

セグメント別損益

各セグメントの営業利益は、継続的な収益力を示す指標として「のれん等償却前営業利益」での開示に変更

■計測：増収減益 売上高 過去最高 ■医用：増収増益 売上高・営業利益 過去最高。利益率も改善

■産業：増収増益 売上高・営業利益 過去最高 ■航空：増収増益 売上高・営業利益 過去最高

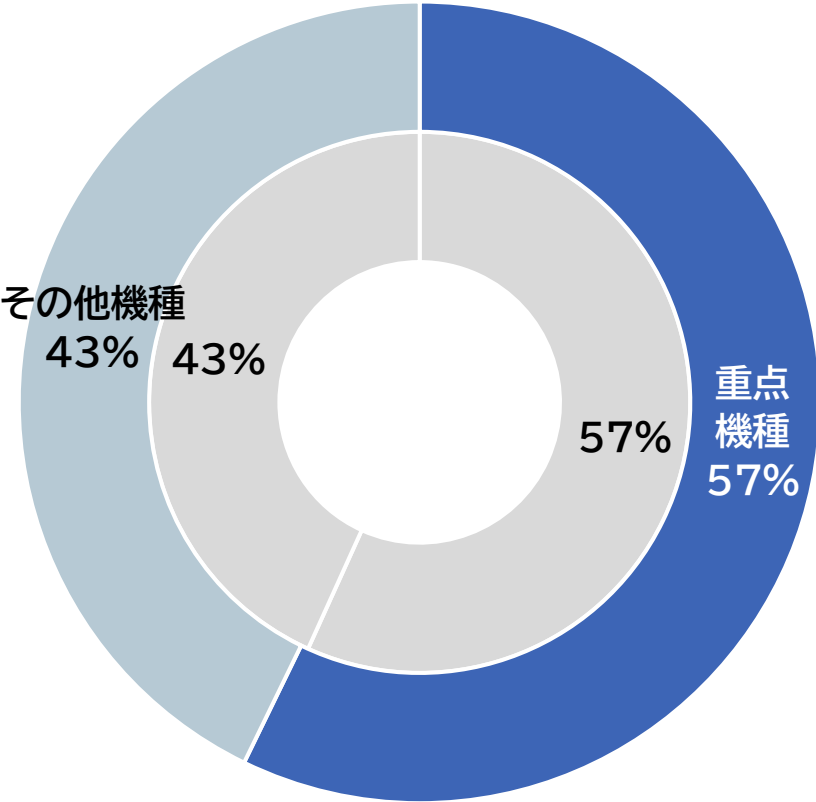
単位 億円	売上高				のれん等償却前営業利益				営業利益率		
	FY2025	FY2026	前年同期比		FY2025	FY2026	前年同期比		FY2025	FY2026	前年同期比 増減
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	758	803	+45	+6%	90	77	▲14	▲15%	11.9%	9.6%	▲2.4pt
医用機器	137	169	+32	+23%	▲7	11	+18	-	-5.2%	6.6%	+11.8pt
産業機器	168	207	+39	+23%	27	38	+12	+44%	15.8%	18.4%	+2.6pt
航空機器	99	110	+11	+11%	21	27	+7	+34%	20.7%	24.9%	+4.2pt
その他	22	16	▲5	▲25%	2	1	▲1	-	8.8%	6.7%	▲2.1pt
調整額	-	-	-	-	▲7	▲9	▲1	-	-	-	-
合計	1,184	1,306	+122	+10%	125	146	+21	+17%	10.6%	11.2%	+0.6pt

FY2026Q1から、当社グループの経営上の重要な指標として「のれん等償却前営業利益」を採用。
*FY2026/FY2025の前年同期比を算出するにあたり、FY2025Q1はのれん等償却費計4億円の組み換えを行った。

計測機器 / 各種売上高構成比率(1Q)

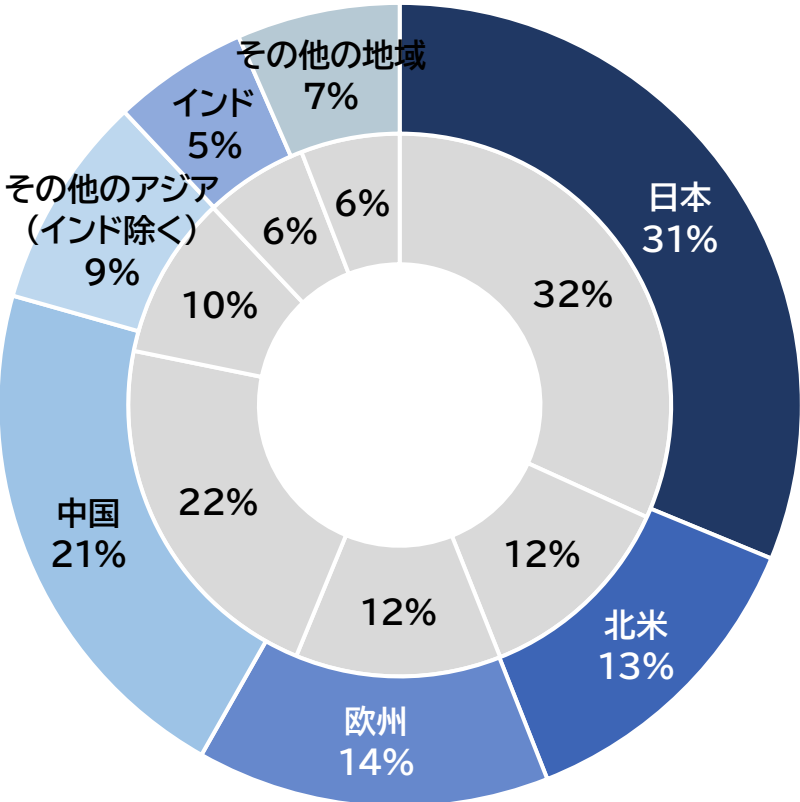
機種別

外側: FY2026実績 内側: FY2025実績



地域別

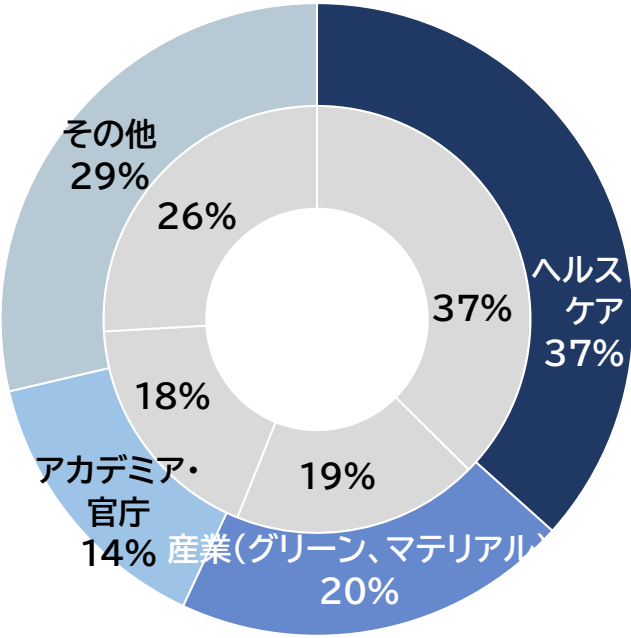
外側: FY2026実績 内側: FY2025実績



計測機器 / 領域別売上高比率(1Q)

市場別売上高構成比

外側: FY2026実績 内側: FY2025実績



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2025	FY2026		
ヘルスケア ・医薬品・食品 ・医療機関 ・受託分析業	37%	37%	+4%	・医薬はインドで減少するも日本・中国で増加 ・臨床(医療機関)は欧州で増加
産業 (グリーン、マテリアル) ・化学・素材 ・電機 ・自動車	19%	20%	+15%	・日本で中東情勢懸念から輸送機・化学などが減少 ・中国では前年までの停滞から回復傾向
アカデミア・官庁	18%	14%	▲15%	・中国や東南アジアは前年の大口案件からの反動減 ・日本・欧州では好調に推移

計測機器 / 重点機種売上高前年同期比

- 重点機種
- LC:日本で医薬向けに増加。インドでは中東情勢影響で減少
MS:欧州は臨床向けに増加。インドでは中東情勢影響で減少
GC:中東情勢影響で、日本・北米で減少

為替影響を含む	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
	+3%	▲2%	+2%	+8%	+3%	+3%	+5%	+7%	+10%	+7%	+6%
重点機種 全体	+3%	▲1%	+4%	+4%	+3%	+3%	+6%	+5%	+5%	+5%	+6%

為替影響を除く	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
	▲6%	▲5%	▲0%	+6%	▲1%	+9%	+6%	+5%	+6%	+6%	▲3%
重点機種 全体	▲5%	▲3%	+3%	+3%	▲0%	+7%	+7%	+3%	+2%	+5%	▲1%

※重点機種:液体クロマトグラフ(LC)、質量分析システム(MS)、ガスクロマトグラフ(GC)

計測機器 / 地域別売上高前年同期比

- 日本: 医薬向けにLC、電機・機械向けに試験機が増加
- 海外: 欧州は臨床向けにMSが増加。東南アジア・インドは中東情勢影響でLCやMSが減少

為替影響を含む	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%	+4%
北米	+13%	+13%	+21%	+11%	+14%	+13%	+4%	+10%	+8%	+8%	+11%
欧州	+8%	+4%	+3%	+7%	+5%	+2%	+13%	+17%	+14%	+12%	+23%
中国	▲5%	▲19%	▲10%	▲2%	▲9%	▲8%	▲1%	+1%	+5%	▲1%	+2%
その他のアジア	+4%	+3%	+1%	+13%	+5%	+13%	+5%	+0%	+14%	+8%	▲6%
インド	+20%	+25%	+4%	+24%	+17%	+16%	▲1%	▲5%	+25%	+8%	▲6%

為替影響を除く	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
日本	+5%	+2%	+12%	▲2%	+3%	+4%	+11%	+3%	+4%	+5%	+4%
北米	▲0%	+9%	+17%	+7%	+8%	+22%	+5%	+9%	+5%	+9%	+1%
欧州	▲4%	▲0%	+0%	+7%	+1%	+4%	+9%	+8%	+1%	+5%	+9%
中国	▲16%	▲21%	▲12%	▲4%	▲14%	▲1%	+1%	+0%	+2%	+0%	▲7%
その他のアジア	▲7%	▲0%	▲1%	+12%	+1%	+21%	+7%	+0%	+12%	+9%	▲14%
インド	+6%	+20%	+0%	+21%	+11%	+25%	+0%	▲6%	+23%	+10%	▲15%

※インドはその他のアジアの内数

計測機器 / 領域別売上高前年同期比

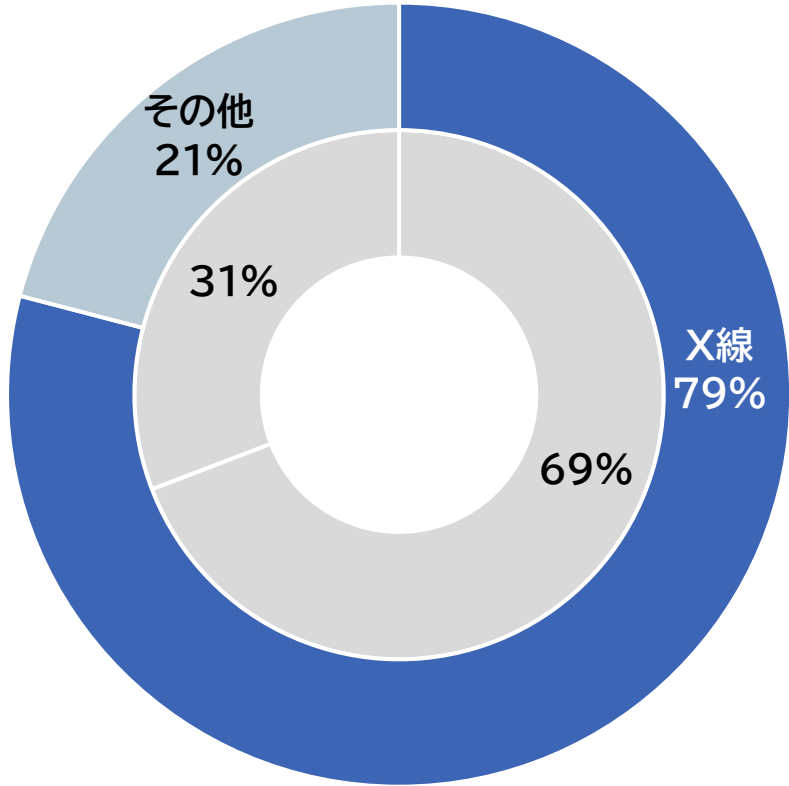
	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
ヘルスケア	+1%	▲4%	+5%	+11%	+3%	+2%	+7%	▲3%	▲3%	+1%	+4%
産業 (グリーン、 マテリアル)	+7%	+2%	+2%	+8%	+5%	▲6%	+1%	+0%	+3%	+3%	+15%
アカデミア/官庁	▲2%	▲8%	▲8%	▲7%	▲6%	+9%	▲1%	+14%	+7%	+7%	▲15%

※為替影響を含む

医用機器 / 各種売上高構成比率(1Q)

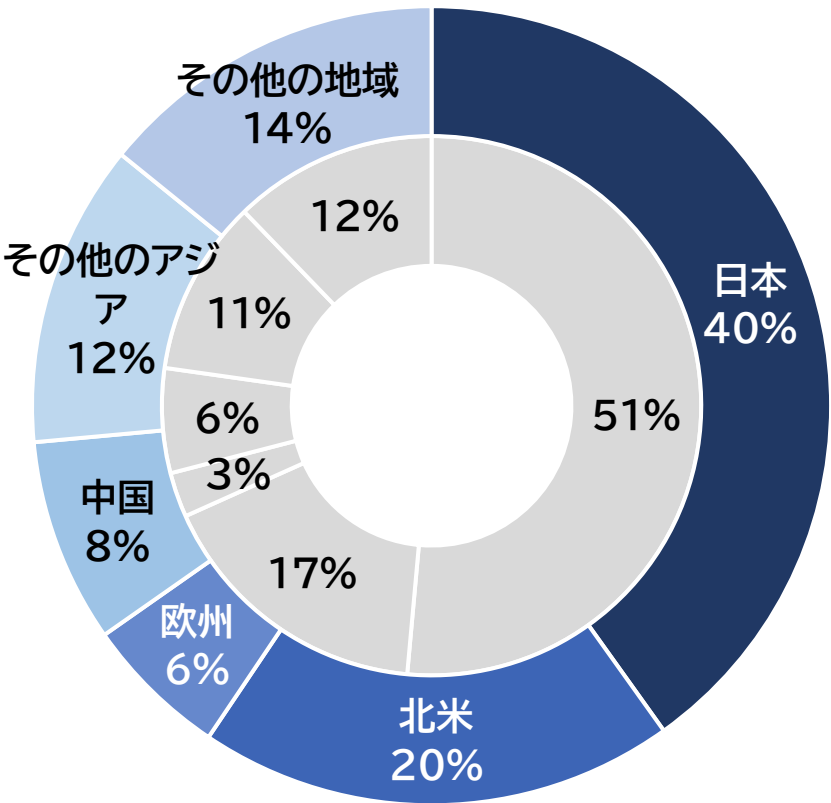
機種別

外側: FY2026実績 内側: FY2025実績



地域別

外側: FY2026実績 内側: FY2025実績



医用機器 / 地域別売上高

単位 億円	FY2025	FY2026	前年同期比		概況
			増減額	増減率	
日本	70	68	▲3	▲4%	・ X線機種は全体的に増加 ・ 大口案件の反動でその他機種が減少
海外	66	101	+35	+52%	・ 海外売上高比率は、60%と前年同期比11pt増加
北米	23	33	+10	+42%	・ 一般撮影システムや回診装置が新製品効果で伸長
欧州	4	10	+6	+169%	・ 一般撮影システムや回診装置が新製品効果で伸長
中国	9	14	+5	+63%	・ 政府の設備更新政策による需要回復で、一般撮影システムやX線TVシステムが増加
その他の アジア	14	21	+6	+44%	・ 注力地域である東南アジアで、血管撮影システムが増加

リカーリング比率

- 計測 : 欧州で臨床向けに消耗品やメンテナンス・サービスが増加
- 医用 : 海外を中心に、サービス網強化によりメンテナンス・サービスが増加
- TMP : 日本、中国、台湾、韓国で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	+0%	+4%	+10%	+7%	+6%	+10%	+6%	+5%	+7%	+7%	+7%
リカーリング比率	41%	38%	40%	35%	38%	42%	38%	41%	37%	39%	45%

医用	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	▲1%	+0%	▲0%	+4%	+1%	+6%	+5%	+5%	▲1%	+3%	▲3%
リカーリング比率	41%	36%	40%	34%	37%	47%	35%	37%	35%	38%	39%

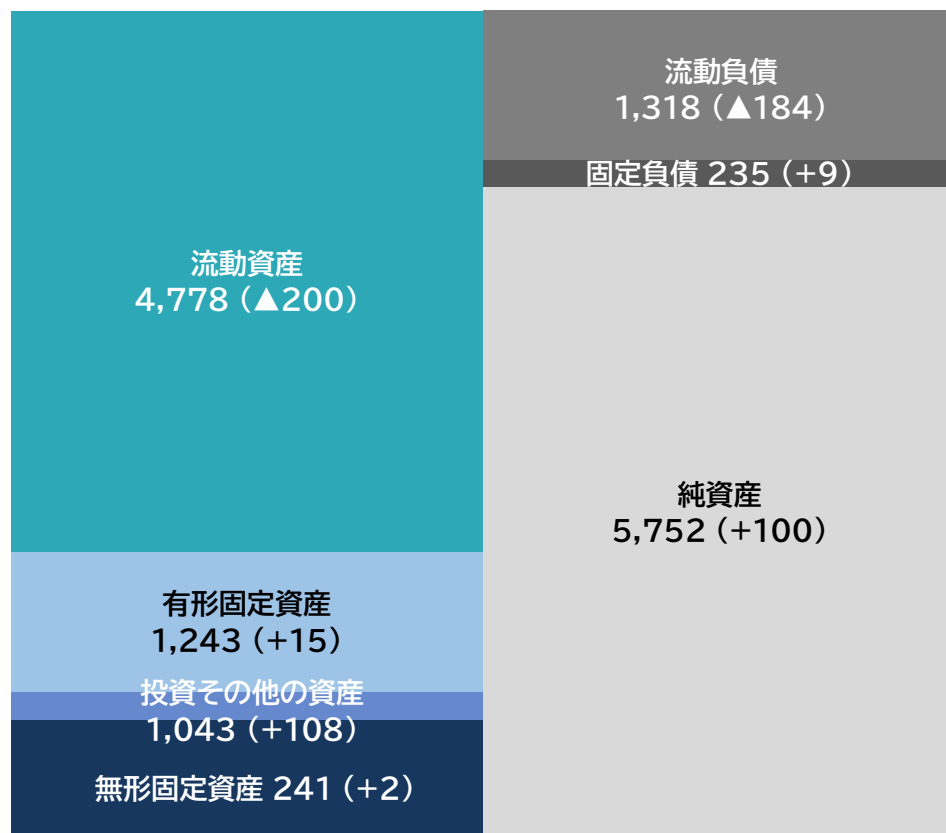
TMP	FY2024					FY2025					FY2026
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q
リカーリング売上高 前期比	+46%	+50%	+34%	+28%	+38%	+24%	+23%	+29%	+32%	+27%	+27%
リカーリング比率	19%	19%	22%	19%	20%	21%	25%	25%	26%	24%	21%

※為替影響を除く

連結財政状態

- 2026年6月末総資産 7,305億円（2026年3月末から▲75億円）
- 売上債権の回収により、流動資産が減少

（億円）
増減は2026年3月末対比



総資産7,305億円

負債・純資産7,305億円

資産

流動資産

▲200億円

売上債権

▲189億円

負債・純資産

流動負債

▲184億円

未払法人税等

▲106億円

賞与引当金

▲82億円

純資産

+100億円

その他有価証券評価差額金

+66億円